

第2部 豊岡の教育のめざす姿

1 基本理念

豊岡で育む 「在りたい自分」と「在りたい未来」を創造する力
～非認知能力（やり抜く力、自制心、協働性）を子どもたちに～

「第1部 策定の趣旨と本市教育の方向性」で述べたことに基づいて、本計画において、豊岡の教育がめざす基本理念を「豊岡で育む 『在りたい自分』と『在りたい未来』を創造する力」とし、副題については、第4次計画を継承し、「～非認知能力（やり抜く力、自制心、協働性）を子どもたちに～」とする。

「豊岡で育む」については、子どもたち自身が必要な資質・能力等を身に付けていけるよう、学校園、家庭、地域、行政等、豊岡市全体で見守り支えていくという視点が重要である。学校園、家庭、地域にある「ひと、もの、こと」を最大限に活用し、豊岡市一丸となって教育を展開する環境を構築していくことが、すべての子どもたちが豊かに学び、それぞれの幸福感を得ていく教育の実現にとって大切であるという思いを込めている。

次に「在りたい自分」は、例えば、自分らしく過ごす、ありのままの自分を大切にするといったことを基本に、正直でありたい、優しい人間でありたいといった内面的な状態をいう。子どもたち一人一人が自分自身と向き合い、自分の中にある価値観や信念に基づいて、評価・判断し、それぞれの幸福感につなげ、自分のよさや可能性を認識していくことが大切である。

また、「在りたい未来」は、個人それぞれがめざす理想の自己、地域、社会の未来像になる。多様な人々が共に暮らす社会において、子どもたち一人一人が、「在りたい自分」やふるさと豊岡を含めた「在りたい地域・社会」を描いて、自己のみではなく主体的に他者と協力・協働しながらその実現に向けた課題を発見・解決し、新たな価値を創造していく力の育成をめざす。

2024年度の全国学力・学習状況調査の結果から、豊岡市の子どもたちは「自分にはよいところがあると思う児童生徒」が約90%、「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う児童生徒」については、90%を超えている。これらの自己肯定感といった非認知能力の高まりに加えて、第4次計画では、他者との対話を通して、考えをすり合わせたり、あきらめずに難しいことに挑戦したりする子どもたちの姿が多く見られた。豊岡市では、「やり抜く力」、「自制心」、「協働性」を集団の中で高めたい非認知能力としている。これらの非認知能力は、肯定的な考え方や関わりの中で習慣的・統合的に育つ力であって、本来誰もが持っている力である。非認知能力を高めることは、第4次計画における成果に加え、「在りたい自分」、「在りたい未来」を創造するためにも必要である。第5次計画においても、非認知能力の向上に力点を置く。

この理念の実現に向け、以下の2つの方針に基づき取り組む。

基本方針1 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進

基本方針2 自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と
家庭・地域等との共創

【集団の中で高めたい非認知能力】

やり抜く力：夢や目標を持って取り組み、あきらめずに努力し続け、粘り強く取り組むこと

自 制 心：自分自身の感情などをうまく抑えたり、コントロールしたりすること

協 働 性：他者と目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること

2 基本方針

基本方針 1 予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進

これからの社会において、一人一人の子どもたちが現在と未来に向けて自己の人生を拓き、生き抜いていく力が求められる。

一人一人の子どもを大切にされた教育の実現に向けて、それぞれの多様性を認め合い、すべての子どもたちが高め合うという「多様性の尊重と包摂性のある教育」を推進するとともに、想定外の事象と向き合い対応する力や不透明な未来を切り拓く力の基となる「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」、「生きる力の基礎」の育成が重要となる。

このため、以下の基本的方向に沿って、教育施策の充実を図る。

(1) 多様性の尊重と包摂性のある教育の推進

すべての子どもたちが自分らしく学ぶためには、発達特性や障害の有無、固定的な性別役割分担意識、外国にルーツを持つ子どもへの対応、言語的背景、貧困や家庭環境、様々な事情・背景による多様な教育的ニーズに対して、一人一人の課題に応じた適切な対応が必要である。社会的包摂の観点から「個別最適な学び」の機会の確保、多様性の尊重の観点から「協働的な学び」の機会の確保が重要である。

加えて、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）¹⁴等の払拭が不可欠であり、それは学校のみならず社会全体で重視していくべきことである。

このため、①つながりのある特別支援教育、②いじめ・不登校等への対応、③多様性・ジェンダー視点に立った教育の推進に取り組む。

(2) 「確かな学力」の育成

子どもたちが、自分の良さを自覚するとともに、あらゆる他者を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な課題を解決し、社会の創り手となっていくためには、基礎的な「知識・技能」、これらを活用して課題解決していく「思考力・判断力・表現力」等の育成、「主体性・多様性・協働性」を身に付けることが重要である。

このため、①新しい時代に求められる資質・能力の育成、②身近な課題の解決・活用に向けた探究的な学び、③小中一貫教育を核とした一層の連携教育、④幼児期から児童期への円滑な接続に取り組む。

(3) 「豊かな心」の育成

子どもたち一人一人が自己実現に向けて、地域や社会、生活、人生をより豊かなものとして

¹⁴ アンコンシャス・バイアス

「無意識の思い込みや偏見」という意味で、自分自身は気付いていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をさす。

いくためには、発達段階に応じた体験活動を通じて、豊かな人間性や社会性を育成することが重要である。また、豊かな学びを身に付けるうえで必要となる、文化芸術やスポーツを体験する機会を、学校園と関係機関が連携し確保していくことが必要である。

このため、①生命の尊厳を基盤とした人権教育、②「対話」により考えを深める道徳教育、③体系的・系統的なキャリア教育、④子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動、⑤読書活動の充実注に取り組む。

(4) 「健やかな体」の育成

子どもたちが、生涯にわたって心身ともに健康で豊かな生活を送るために、健康で安全な生活を送り、運動やスポーツに親しむ資質・能力を育成することが重要である。

このために、①望ましい生活習慣の形成を図る健康教育・食育、②体力・運動能力の向上に取り組む。

(5) 「生きる力の基礎」の育成

乳幼児期において、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通じて、一体的に育みたい資質・能力の3つの柱「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が育まれることが重要である。

このために、①健康な体をつくる力の育成、②人と関わる力の育成、③思いを伝える力の育成、④自然や身近な環境に関わる力の育成、⑤感性豊かに表現する力の育成に取り組む。

注 読書活動は、教育プランに基づく方策を「子どもの読書活動推進計画」に位置付け、総合的かつ体系的に取り組を進めていく。

基本方針 2 自分らしく安心して過ごせる学校園の創造と 家庭・地域等との共創

すべての子どもたちが自分らしく安心して過ごし、学び、それぞれの幸福感を得る教育活動を実現していくためには、子どもの居場所をつくるのが大切である。そのために、学校園・家庭・地域が連携・協働し、安全・安心な教育環境の整備・充実を図ることが必要である。

少子化に伴い児童生徒数が急激に減少している中で、社会全般で子どもたちを支えるための学校園・家庭・地域との連携・協働の推進、子どもたちの日常を保障するための安全・安心な教育の推進と教育環境の整備、子どもたちが抱える困難や課題への対応、多様な学びの推進等に対応するための教職員の資質・能力の向上、チーム学校としての働きがいのある学校づくり等の学校園の組織力の強化が重要である。

このため、以下の基本的方向に沿って、教育施策の充実を図る。

(1) 学校園・家庭・地域等の連携・協働の推進

子どもたちが自分らしく過ごし、豊かに学んでいくためには、学校園・家庭・地域が連携・協働し、地域社会全体で子どもの成長を支えていくという意識づくりが重要である。

家庭はすべての教育の出発点であり、子どもにとって望ましい基本的生活習慣や学習習慣を身に付けられるよう学校園と関係機関が連携した取組を進め、不安を抱える保護者の相談・支援に取り組む必要がある。

また、地域においては旧小学校区ごとに地域コミュニティ組織があり、子どもへの地域への愛着の醸成や地域行事への参加を促すような取組等、保護者や地域住民の教育活動への参画を学校とともに促進していくことが求められる。

このため、①地域全体で子どもを育てる環境の充実、②地域コミュニティ組織と連携した学びの支援、③家庭の教育力向上のための支援に取り組む。

(2) 安全・安心な教育の推進と教育環境の整備

子どもたちが安全・安心で快適な学校園生活を送ることができるよう、安全で質の高い教育環境の整備・充実や、安全教育・防災教育の推進を図ることが必要である。また、急激な少子化の進行による課題に対応するため、学校園の適正規模・適正配置を推進することも重要である。加えて、すべての子どもたちが未来に希望をもち、家庭の経済事情によって「学び」が止まることのないようにすることも大切である。

このため、①施設の計画的な改修と ICT 環境整備等教育環境の整備・充実、②通学（園）手段の確保、③安全教育・防災教育の推進、④学校園の再編、⑤就学・修学支援に取り組む。

(3) 教職員の資質・能力の向上

新しい時代に求められる資質・能力の育成や子どもたちの多様な学びを実現していくためにも、教職員の資質・能力の向上は必要である。教育環境が複雑化・多様化している中、教育に対

する強い情熱・専門家としての確かな力量・豊かな人間性を備えた人材の確保・育成、学校園の接続を意識した日々の授業改善を軸とする系統的・組織的な研修体制の構築・推進は重要である。

このため、①教職員の資質と実践的指導力の向上、②園小接続の推進に向けた教職員研修、③多様性に配慮した教育・保育の推進に取り組む。

(4) 学校園の組織力の強化

一人一人の子どもに寄り添った教育の実現や複雑化・困難化する教育課題に適切に対応していくためには、教職員が心身ともに健康で最大限に能力を発揮できる環境整備が必要である。管理職のマネジメントのもと、教職員一人一人の力を組織的かつ機動的に生かした協働体制づくりや業務の効率化、健康の保持・増進等を含めた働きがいのある学校づくりを推進し、子どもたちの学びを充実させることが重要である。

このため、①学校園運営の効率化・組織化、②働きがいのある学校づくり、③教職員の健康管理に取り組む。